

機能動詞論と連語論

The Theory of Light-verbs and Collocations

王 丹彤

WANG, Dantong

岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要

第46号 2018年11月 抜刷

Journal of Humanities and Social Sciences

Okayama University Vol.46 2018

機能動詞論と連語論 The Theory of Light-verbs and Collocations

王 丹彤 (WANG,Dantong)

1. はじめに

文は言語活動の基本的な単位であり、単語から構成される。しかし、文の構築材料は単語だけではない。語結合¹もまた、文の構築材料となる。そして、語結合は、基本的に、自由結合と非自由結合に分類することができる。自由結合とは、二つ以上の自立的な単語が限定・被限定（かざり・かざられ）の関係でむすびついて、一つの合成的な名づける意味をあらわす言語の単位である。一方、非自由結合は、「道草をくう」「腹がたつ」のような慣用句、すなわち、意味が非分割性を持ち、既成品の形で使われる比較的固定化した表現がその代表であるが、「すもうをとる」「うそをつく」のように、構成要素の一つが自由な意味を保存し、もう一つが慣用句にしばられた意味を表す表現もある。

従来、自由結合は連語論によって記述され²、非自由結合は慣用句論で議論されてきた。これに対して、自由結合とも慣用句とも言えない、特殊な語結合に注目した研究がある。それは、村木新次郎の機能動詞論である。村木（1991）では、「勉強をする」「さそいをかける」「変化がおきる」「実

¹ 「語結合」という用語について、『言語学大辞典 第6巻 術語編』では以下のような説明がある。

「1950年代以降、ロシア語の統語論の記述で中核的概念として多用されるようになった術語で、2個以上の自立語が「一致（照応 согласование）」、「支配（управление）」または「付加（隣接 примыкание）」のいずれかの文法的従属関係によって結びつき、文のいろいろな成分を形成する統語論上の単位をこのようによぶ。（中略）

語結合はまた、自由語結合と非自由語結合に分類される。前者は читать книгу「本を読む」のように、個々の構成要素が自立的な意味を保ち、相互に他の語と交換可能で派生力をもつものをさすが、железный「鉄の」と дорога「道」の結合である железная дорога「鉄道」は、個々の構成要素の意味の合成とは、別の独立の事物をさす意味を獲得し、その意味はこの特殊な結合に限られている。」（pp. 560-561）

² 二つの単語以上の単語のむすびつきには、大きく、従属的なむすびつき、陳述的なむすびつき、並列的なむすびつきの三つのタイプがある（言語学研究会編（1983：4-5））。このうち、連語論の対象となるのは、従属的なむすびつきである。「父と母」「犬や猫」のような「並列的なむすびつき」は一つの合成的な名づける意味を表さないで、連語論の対象からはずされる。「犬が走る」「雨が降る」のような陳述的なむすびつきは、いわゆる主語＝述語の関係であり、モダリティとテンポラリティから切り離すことができない点で、従属的なむすびつきとは異なる。だが、「雨が降っている」「雨が降った」「雨が降るだろう」は、陳述的な意味が異なるが、「雨が降る」という現象を名づけている点は共通している。この点で、このタイプの語結合は連語論の対象として捉えられる可能性があるが、従属的なむすびつきではなく、相互依存的なむすびつきであるといえる。

行にうつす」のような語結合に現れる動詞について、「実質の意味を名詞にあずけて、みずからはもっぱら文法的な機能をはたす動詞」として、これらを「機能動詞」と呼び、機能動詞と「勉強」「さそい」「変化」「実行」のような広い意味での動作性をもつ名詞とのむすびつきを「機能動詞結合」と呼んだ。「本をよむ」「山にいく」「工場ではたらく」のような連語（＝自由結合）では、構成要素のそれぞれが語彙的な意味をもった自立的な単語であるのに対し、機能動詞結合は、動詞の自立性が希薄で、名詞への依存度が高いので、非自由結合の一種として捉えられている。しかし、村木も述べているように、機能動詞結合は、自由結合とも慣用句とも接するところがあり、三者は連続的である。

本稿では、まず、日本語の機能動詞論の代表として、村木の研究を取り上げ、機能動詞結合の記述がどこまで進められているかを確認する。続いて、研究史を遡り、奥田靖雄による、を格名詞と動詞からなる連語の記述の中に機能動詞結合にあたるものが含まれていることを指摘する。最後に、奥田と村木の研究を対照し、語結合における機能動詞結合の位置づけを検討する際に問題となることを指摘する。

2. 村木新次郎の機能動詞論

「機能動詞」は、ドイツ語 Funktionsverb の訳語であり、管見では、岩崎（1974）が初出である。岩崎は、当時ドイツ語研究で注目を浴びていた機能動詞の概念を日本語に適用し、「挨拶をする」「引越しをする」「通用する」「敬遠する」などの「体言＋[を]する」型の表現では、動詞の意味の実体は「体言」のなかに完全に吸収されており、「する」の方には純粋な文法機能だけ残されると説明した。岩崎以降、機能動詞（結合）の研究はあまり多くないが、村木新次郎に一連の研究があり、村木の研究を日本語の機能動詞および機能動詞結合に関する研究の代表とみることができる。

村木（1980）は、機能動詞に関する村木の最初の論文であり、これをもとにして機能動詞に関するまとめた記述を行ったのが、村木（1991：第3章）である。そのほか、村木（1983）、同（1985）でも機能動詞について論じているが、村木の代表的な機能動詞研究として、ここでは、村木（1980）、同（1991）を中心に取り上げる。

村木（1991）の研究における機能動詞とは、実質的な意味を名詞にあずけて、みずからはもっぱら文法的な機能をはたす動詞のことであり、基本的に、機能動詞は「名詞＋動詞」から構成される語結合、すなわち機能動詞結合にあらわれる。機能動詞結合は、例えば、「反応がおこる」「注目をあびる」「合意に達する」「前提と／にする」のようなものである。

また、村木は、機能動詞は動詞の実質的な用法から派生したとしている。言い換えれば、機能動詞は品詞の一種ではなく、動詞の用法が拡張したものである。機能動詞は、実質の意味の有無によって、実質動詞と対立する。実質動詞としての用法と機能動詞としての用法は、表1のように例示できる（村木1991：217）。つまり、同じ動詞が自由な語結合にも機能動詞語結合にもあらわれうる。

表1 実質動詞と機能動詞

| 実質動詞としての用法 | 機能動詞としての用法 |
|----------------|----------------|
| <u>家がある</u> | <u>連絡がある</u> |
| <u>背広をかける</u> | <u>さそいをかける</u> |
| <u>お金をはらう</u> | <u>努力をはらう</u> |
| <u>品物をおくる</u> | <u>拍手をおくる</u> |
| <u>上体をおこす</u> | <u>反応をおこす</u> |
| <u>切手をあつめる</u> | <u>注目をあつめる</u> |
| <u>皿をかさねる</u> | <u>練習をかさねる</u> |

機能動詞と結びつく名詞は、典型的には行為を表す名詞（動作名詞）であるが、表2のように、その周辺に状態名詞や現象名詞もあり、臨時的な動作名詞もあるという（村木1991：214-216）。

表2 機能動詞と結び付く名詞

| 名詞の種類 | 説明 | 例 |
|----------|-----------------------------------|--|
| 動作名詞 | 動詞と派生関係にあり、何らかの動的な運動が名づけられている名詞 | <u>さそいをかける</u> 、 <u>影響をあたえる</u> |
| 状態名詞 | 静的な状態を名づけた名詞 | <u>平和をたもつ</u> 、 <u>最高潮に達する</u> |
| 現象名詞 | 自然現象、感覚、生理現象、病理現象を表す名詞 | <u>けむりがたつ</u> 、 <u>においがする</u> 、 <u>汗をかく</u> 、 <u>けがをする</u> |
| 臨時的な動作名詞 | 本来は具体的なものをさす名詞が語結合の中で動作的な意味にずれたもの | <u>客がある</u> 、 <u>お茶にする</u> |

機能動詞は、基本的に「名詞＋動詞」という語結合の中にあらわれるが、このほか、「名詞＋動詞」の語結合には、自由な語結合と慣用句がある。村木は、これらの三つのタイプは、形式面に共通性があり、文法面や意味面に各自の特徴をもちながら、区別的な限界は曖昧であり、一つの連続体であると認めている。

自由な語結合では、構成要素のそれぞれが語彙的意味をもって自立し、自由な意味を表す。一方、機能動詞結合は、語彙的意味の自立性が希薄化した機能動詞をふくみ、語結合全体で一語化した合成動詞にちかい。慣用句は、文法的側面から固定性、意味的には非分割性をもつという点で、他の語結合と区別され、全体で一単語に相当する。

自由な語結合・機能動詞結合・慣用句の違いについては、以下のように述べている。自由な語結合と機能動詞結合の違いは、実質動詞と機能動詞の違いに還元できる。例えば、動詞「あつめる」は具体名詞、抽象名詞、動作名詞とくみあわさることができ、名詞により、構成する語結合のタイ

プが異なる。例えば、「切手をあつめる」のように具体名詞とくみあわさると、自由な語結合を構成し、「注目をあつめる」のように動作名詞とくみあわさると、機能動詞結合を構成する。ただし、「視線をあつめる」や「人気をあつめる」のように動作性をもたない抽象名詞とくみあわさると、判断しにくく、中間的であるとしている。つまり、同じ動詞と共起しても、名詞のタイプによって動詞の実質的な意味の濃淡が異なり、語結合のタイプも移行する。自由な語結合と機能動詞結合には、典型的なものもあり、中間的なものもあり、構成要素により、いくつかの段階がありうると、村木は指摘している。

また、機能動詞結合は、慣用句とも連続している。例えば、「日記をつける」「辞書をひく」「写真をとる」などのような非動作名詞と実質の意味を欠く動詞から構成される語結合は、むすびつきの固定性から見ると、慣用句に近いが、語彙の意味が名詞の方にあり、動詞の実質の意味が空疎化している点で、機能動詞結合に近いとしている。

村木（1980）では、「名詞＋動詞」からなる語結合の全体像を、動詞の実質の意味の濃淡と名詞の類別のくみあわせによって、図1のように捉えている。そして、「雨がふる」「虹がたつ」「病気をまねく」「不安におちいる」を自由な語結合と機能動詞結合の中間に、「日記をつける」「メモをとる」を、慣用句と機能動詞結合の中間に位置づけている。

| 動詞 名詞 | | 実質の意味 | | | |
|----------|------|-------------------|---------------------|----------------------------|--------|
| | | ある | なし | | |
| 抽象名詞 | 動作 | 演奏を きく 運転を ならう | 攻撃を かける 注意を はらう | 散歩を する | 機能動詞結合 |
| | 現象 | 雨が もる 虹が みる | 雨が ふる 虹が たつ | 汗を かく 稲光が する においが する | |
| | 状態 | 病気に なやむ | 病気を まねく 不安に おちいる | | |
| | 言語作品 | うそを いう | うそを つく | | |
| 具体名詞 | | 鳥が なく パンを たべる | 日記を つける メモを とる | | |

図1 動詞の意味と名詞の類別（村木1980：32）

そのほか、村木（1991）で注目されるのは、ヴォイス、アスペクト、ムードといった文法的意味を積極的に特徴づけている機能動詞結合について、かなり詳しく記述している点である。どのようなものを取り上げられているかを表3にまとめておく。

表3 機能動詞の文法的意味

| 文法的意味 | | 説明 | 例 |
|-------|-------|-----------------------------|------------------|
| ヴォイス | 受動態 | 「…される」と交替するもの | 信頼をあつめる、注目を浴びる |
| | 他動使役態 | 「…させる」と交替するもの | 誤解をあたえる、迷惑をかける |
| | 使役受動態 | 「…させられる」と交替するもの | 完敗を喫する |
| | 相互態 | 「…しあう」と交替するもの | 約束をかわす、契約をむすぶ |
| | 基本態 | 「…する」と交替するもの | 失敗をおかす、感動をおこす |
| アスペクト | 始動相 | 動作のはじまりを特徴づける | 実施にうつす、攻撃にでる |
| | 終結相 | 動作のおわりを特徴づける | 検討をおわる、失敗に帰す |
| | 実現相 | 動作の成立を特徴づける | 合意に達する、優勝をはたす |
| | 継続相 | 動作の持続的な側面を特徴づける | 沈黙をまもる、おもいをめぐらす |
| | 反復相 | 動作がくりかえしおこなわれることを特徴づける | 努力をかさねる、練習をくりかえす |
| | 反復強意相 | — | 修行をつむ、調査をすすめる |
| | 強意相 | 動作が時間の経過とともにつよまっていくことを特徴づける | 工夫をこらす、判断をかためる |
| ムード | 緩和相 | 動作が時間の経過とともによわまっていくことを特徴づける | 微笑をもらす、愚痴をこぼす |
| | ムード | 動作主体の意志を特徴づけているもの | 協力をねがう、援助をのぞむ |
| | | 動作主体の示威をあらわすモーダルな特徴をもっているもの | 譲歩をしめす、反発をみせる |
| | | 可能の意味をおびたもの | 納得がいく、判断がつく |
| | | 自発の意味あいをおびているもの | 想像がつく、予想がつく |
| | | モーダルな意味をもつ動作名詞 | 予定がある、考えがみられる |

3. 奥田靖雄の連語論

日本語の連語論に関する代表的な研究としては、奥田靖雄を代表とする言語学研究会の一連の研究が挙げられる。なかでも、奥田による、を格名詞と動詞からなる連語の記述は、連語論の方法論を提示したものとして、多くの研究者に影響を与えている。

を格名詞と動詞とのくみあわせについての奥田の研究で公刊されているものは二つある。一つは1968年から1972年にかけて雑誌『教育国語』に掲載された「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」(以下、「教育国語版」と呼ぶ)であり、もう一つは、その草稿に当たる、60年に書かれ、のちに言語学研究会編(1983)に収録された「を格のかたちをとる名詞と動詞とのくみあわせ」(以下、「60年版」と呼ぶ)である。60年版は、を格の名詞と動詞とのくみあわせを体系的に記述した最初の研究であり、教育国語版は、雑誌に掲載する際に、それを大幅に改訂したものである³。それぞれが記述している連語のタイプを、表4、表5に示しておく。

³ 60年版と教育国語版の記述の違いについては、両者を収録した、言語学研究会編(1983)の「編集にあたって」に説明がある。「…教育国語版は、ひきだした結論を整理して記述しているが、60年草稿は、その結論をひきだしていく過程をたんねんに記述している。(中略)

60年草稿のほうは、わからないなりでも、を格の名詞と動詞とのくみあわせの全体をとらえようとしているが、教育国語版のほうは、はっきりした結論をだせないところを保留のままにのこしている。60年草稿における第三章第五節「動作的な態度のむすびつき」は、教育国語版でははずされている。そのかわり、教育国語版のほうには、第四章「状況的なむすびつき」があらたにつけくわえられていて、これらの論文は相互におぎないあっているとみなしてもいいだろう。」(言語学研究会編1983:16)

表4 60年版に記述された連語のタイプ

| | | | |
|--------|-------------------|------------|-------------|
| はたらきかけ | 物にたいする はたらきかけ | ①もようがえ | くるみをわる |
| | | ②とりつけ | 指輪をはめる |
| | | ③とりはずし | 夜着をはぐ |
| | | ④ばしょがえ | 炭を火鉢へうつす |
| | | ⑤ふれあい | かべをたたく |
| | | ⑥つくりだし | 着物をぬく |
| | 人にたいする はたらきかけ | ①生理的な状態変化 | 少年をおこす |
| | | ②移動 | 娘を上京させる |
| | | ③心理的な状態変化 | 百姓を納得させる |
| | | ④社会的な状態変化 | 政治家を入閣させる |
| | | ⑤よびかけ | 先輩をたのむ |
| | 状態にたいする はたらきかけ | ①状態変化 | 信頼をつよめる |
| | | ②状態生産 | 変化をもたらす |
| | 論理の表現 | － | 悪意をふくむ |
| かかわり | 感性的なむすびつき | － | 船をみる |
| | 知的なむすびつき | ①思考活動 | 組織を考察する |
| | | ②言語活動 | 病状をたずねる |
| | | ③意志活動 | 回復をいのる |
| | 認識のむすびつき | ①発見活動 | 国民性を発見する |
| | | ②認知活動 | 実質を確認する |
| | | ③再生活動 | 気もちをおもいだす |
| | | ④計算活動 | 呼吸をかぞえる |
| | 態度のむすびつき | ①感情＝評価的な態度 | 東京をこいしがる |
| | | ②知的な態度 | 小説を科学と考える |
| | | ③意義づけ的な態度 | かごを手土産にする |
| | | ④表現的な態度 | 懦弱をせめる |
| | 動作的な態度のむすびつき | － | 人をまつ |
| | 内容のむすびつき | ①内的経験の内容 | 嫌悪を感じる |
| | | ②知的活動の内容 | 方針をきめる |
| | | ③動作の内容 | 行事をおこなう |
| | 論理的な関係の表現 | － | 一般性の喪失を意味する |
| 所有 | うけわたし | － | 運賃をわたす |
| | ものもち | － | 店をもつ |

表5 教育国語版に記述された連語のタイプ

| | | | | |
|-----------|-------------|---------------|---------------|----------------|
| 対象的なむすびつき | 対象へのはたらきかけ | 物にたいするはたらきかけ | ①もようがえ | くるみをわる |
| | | | ②とりつけ | 受話器をみみにあてがう |
| | | | ③とりはずし | ビールのせんをぬく |
| | | | ④うつしかえ | 炭を火鉢へうつす |
| | | | ⑤ふれあい | ほおをさす |
| | | | ⑥結果的なむすびつき | 着物をぬく |
| | | 人にたいするはたらきかけ | ①生理的な状態変化 | 友達を笑わせる |
| | | | ②空間的な位置変化 | 娘を上京させる |
| | | | ③心理的な状態変化 | かれをたかぶらせる |
| | | | ④社会的な状態変化 | 政治家を入閣させる |
| | | | ⑤よびかけ | 先輩をたのむ |
| | | 事にたいするはたらきかけ | ①変化のむすびつき | 抵抗をよめる |
| | | | ②出現のむすびつき | 変化をもたらす |
| | 心理的なかわり | 認識のむすびつき | ①感性的なむすびつき | 果物をあじわう |
| | | | ②知的なむすびつき | 目的をみぬく |
| | | | ③発見のむすびつき | 美質をみつける |
| | | 通達のむすびつき | — | 関係をはなす |
| | | 態度のむすびつき | ①感情的な態度のむすびつき | 風呂をたのしむ |
| | | | ②知的な態度のむすびつき | 文章を一技術をみなす |
| | | | ③表現的な態度のむすびつき | わたしをせめる |
| | | モーダルな態度のむすびつき | ①要求的なむすびつき | 復活をのぞむ |
| | | | ②意志的なむすびつき | 教育を心がける |
| | | 内容規定的なむすびつき | ①体験の内容規定 | 疲れを感じずる |
| | | | ②思考の内容規定 | 真偽をたしかめる |
| | | | ③通達の内容規定 | 挨拶をのべる |
| | 所有のむすびつき | やりもらい | — | お菓子をうばう |
| | | ものもち | — | 家をもつ |
| 状況的なむすびつき | 空間的なむすびつき | | うつりうごくところ | 道をたどる |
| | | | とおりぬけるところ | やぶをぬける |
| | | | はなれるところ | 事務所をでる |
| | 状況的なむすびつき | | — | ゆき子のそばをとおりにぬける |
| | 時間的なむすびつき | | — | 春の日を一日床にねる |
| | 時間＝量的なむすびつき | | — | 幾時間をもがきとおす |
| | 空間＝量的なむすびつき | | — | 二三町をとる |

以下、この二つのバージョンの異同について確認しておく。

まず、60年版では、連語のタイプは大きく「はたらきかけ」「かわり」「所有」の三つに分けられていたが、教育国語版では、これらは「対象的なむすびつき」としてまとめられ、新たに「状況的なむすびつき」が追加された。また、60年版における「論理の表現」「動作的な態度のむすびつき」

「論理的な関係の表現」というタイプは、教育国語版でははずされている。

次に、60年版の「物にたいするはたらきかけ」に属する「つくりだし」は、教育国語版では「結果的なむすびつき」に、60年版の「状態にたいするはたらきかけ」は、教育国語版では「事にたいするはたらきかけ」に、また「所有」に属する「うけわたし」は「やりもらい」になった。ただし、これらは用語の変更にとどまり、内容的には特に違いはない。

さらに、60年版において、「かかわり」を表す連語は、「感性的なむすびつき」「知的なむすびつき」「認識的なむすびつき」「態度のむすびつき」「動作的な態度のむすびつき」「内容のむすびつき」「論理的な関係の表現」という七つのタイプに分けられていたが、すでに触れたように、そのうちの「動作的な態度のむすびつき」「論理的な関係の表現」は、教育国語版からはずされ、残った五つのタイプも再編された。

その残った五つのタイプ（「感性的なむすびつき」「知的なむすびつき」「認識的なむすびつき」「態度のむすびつき」「内容のむすびつき」）がどのように再編されたかを見ると、「感性的なむすびつき」「知的なむすびつき」「認識的なむすびつき」は組み直され、新たな「認識のむすびつき」になる。また、「知的なむすびつき」に属していた「意志活動」「言語活動」は、それぞれ「モーダルな態度のむすびつき」「通達のむすびつき」という独立のタイプになった。さらに、「態度のむすびつき」からは「意義づけ的な態度」が、「内容のむすびつき」からは「動作の内容」がはずされ、「内容のむすびつき」に属する「知的活動の内容」は「思考の内容規定」と「通達の内容規定」とに分けられている。

以上のように、60年版で取り上げられている連語のタイプのいくつかが教育国語版でははずされているのだが、はずされた理由がある程度推測できるものがある。それは、「論理の表現」「論理的な関係の表現」「意義づけ的な態度」及び「動作の内容」であり、これらは、自由結合ではない、つまり連語ではないと判断された可能性がある。奥田は、慣用句（慣用的ないいまわし）を連語からはっきりと区別しているが、機能動詞結合にあたるものの扱いについては迷いがあったのではないと思われる。このあたりを含め、次節では、奥田の記述をさらに詳しく検討していく。

4. 連語論に見られる機能動詞結合に関連する記述

村木が指摘しているように、自由結合と機能動詞結合の区別の境界は明確ではない。そのため、連語の記述に機能動詞結合が混じることも十分にありうる。また、慣用句が連語から区別されるように、機能動詞結合についても、連語論においては慎重に取り扱われることが予想される。そこで、本節では、村木（1991）が挙げている機能動詞（を格名詞と結合して文法的意味を特徴づけるもの）が奥田氏の60年版および教育国語版の連語の研究においてどのように扱われているか、いないか、について調査する。調査は、動詞別に行い、機能動詞用法だけでなく、実質動詞用法も対象とする。

4.1 調査結果

村木 (1991) で指摘されている、ヴォイス、アスペクト、ムードといった文法的意味を積極的に特徴づけている機能動詞結合については、表3に示した。それらが奥田の連語論でどのように記述されているかを調査した結果を表6に示す。村木 (1991) では、を格名詞と組み合わせる機能動詞を101語取り上げているが、これらの101語の動詞には二つ文法的意味を持つ動詞もある。例えば、「あたえる」は、「安心をあたえる」では他動使役態、「保証をあたえる」では基本態とされている。このような動詞には「*」を付した。

表6の左の三列は、村木 (1991) に挙げられている機能動詞および共起できる名詞の例と表現する文法的意味を示し、右の二列は、奥田の60年版 (奥田1960) と教育国語版 (奥田1968-72) における当該の機能動詞に関する記述である。奥田の記述について、「→」の左は共起する名詞のタイプであり、右は構成する連語のタイプである。具体的な名詞や例文を挙げられている場合 [] の中に示す。名詞の後の番号は当該文献での例文番号である。

表6 村木 (1991) に挙げられているを格名詞と結合する機能動詞の連語論における記述

| | 機能動詞 | 共起名詞 | 村木1991 | 奥田60年版 | 奥田教育国語版 |
|---|------|------------|---------------|---|---|
| 1 | あつめる | 注目 評価 | (ヴォイス) 受動態 | ・人名詞→移動 | ・具体物→うつしかえ ・所有物→やりもらい ・[額 173]→形象的な表現 |
| 2 | あびる | 絶賛 非難 | (ヴォイス) 受動態 | ・具体物→とりつけ | ・具体物→とりつけ |
| 3 | うける | 指摘 非難 | (ヴォイス) 受動態 | ・所有物→うけわたし ・状態性の抽象名詞[ショック 361、 衝動 363、打撃 365]→状態生産に 近い ・動作性の抽象名詞[拷問 368、譴責 369]→スルに近い ・具体物→ふれあい | ・具体物→ふれあい ・所有物→やりもらい ・慣用的なくみあわせ ・状態をしめす抽象名詞[感じ 479、 衝動 480、ショック 481、印象 482] →事にたいするに近い ・動作をしめす抽象名詞[指導 487、 祝福 488、おしえ 489、保護 490]→ 助動詞に近い |
| 4 | える | 評価 教示 | (ヴォイス) 受動態 | ・所有物→うけわたし ・動作性の抽象名詞→スルに近い | ・所有物→やりもらい ・動作をしめす抽象名詞[報知 493]→ 助動詞に近い |
| 5 | かう | 怒り 微笑 | (ヴォイス) 受動態 | ・所有物[花かんざし 344]→うけわた し ・[批判、歎心、志労働力]→フレジ オロジカルなくみあわせ ・所有物[屋敷 359]→ものもち ・具体名詞、抽象名詞→感情 = 評価 的な態度 | ・所有物[屋敷 465]→ものもち ・所有物[木綿 429]→やりもらい ・[家]→対象的なむすびつき ・うごき、状態、特徴、関係[歎心 469]→事にたいする |
| 6 | くう | 反撃 突き上げ | (ヴォイス) 受動態 | ・[道草]→フレジオリジカルないい まわし ・具体物→もようがえ | ・具体物[ささあめ 27]→もようがえ ・[道草]→慣用的ないいまわし ・人名詞→人にたいする |
| 7 | くろう | 処分 反発 | (ヴォイス) 受動態 | ・記述なし | ・記述なし |

| | | | | | |
|----|-------|------------|------------------|--|--|
| 8 | まねく | 誤解 批判 | (ヴォイス) 受動態 | ・心理活動の対象→かかわり ・人名詞→よびかけ ・人名詞→移動 | ・人名詞→よびかけ ・うごき、状態、特徴、関係[対立 405]→出現のむすびつき ・人名詞→人にたいする |
| 9 | ゆるす | 侵入 逆転 | (ヴォイス) 受動態 | ・具体名詞、抽象名詞→感情=評価的な態度 ・動作性の抽象名詞[人足 492、批判 487]→意志活動(要求) | ・あらゆる名詞[通商 837、罪 848]→感情的な態度 ・動作性の名詞[からだ 856]→要求的なむすびつき |
| 10 | 博す | 喝采 好評 | (ヴォイス) 受動態 | ・記述なし | ・記述なし |
| 11 | うながす | 進歩 注意 | (ヴォイス) 他動使役態 | ・心理活動の対象→かかわり ・人名詞[木下 239]→よびかけ ・抽象名詞[決心 248]→内容のむすびつき ・抽象名詞→言語活動(要求・願望) | ・動作性の名詞[決心 313、謝罪 826]→モーダルな態度 ・人名詞[木下 302]→よびかけ ・人名詞[女 818]→人にたいする |
| 12 | おわせる | けが 重傷 | (ヴォイス) 他動使役態 | ・記述なし | ・記述なし |
| 13 | しいる | 選択 戦い | (ヴォイス) 他動使役態 | ・記述なし | ・記述なし |
| 14 | ひきおこす | 混乱 不均衡 | (ヴォイス) 他動使役態 | ・属性、運動、自然現象、心理現象、社会現象、社会意識、社会組織など→状態生産 | ・うごき、状態、特徴、関係[混乱 377]→出現のむすびつき ・うごき、状態、特徴、関係→事にたいする(あわせ動詞) |
| 15 | もたらす | 低下 変化 | (ヴォイス) 他動使役態 | ・属性、運動、自然現象、心理現象、社会現象、社会意識、社会組織など[変化 279]→状態生産 | ・うごき、状態、特徴、関係[変化 394、安定 396]→変化のむすびつき ・うごき、状態、特徴、関係[不幸 376、安定 396]→出現のむすびつき |
| 16 | よぶ | 感動 | (ヴォイス) 他動使役態 | ・心理活動の対象→かかわり ・人名詞→移動 ・人名詞[お民 245]→移動 ・具体名詞、抽象名詞[その人 661]→意義づけの態度 ・抽象名詞[名 754]→知的活動の内容 | ・人名詞→よびかけ ・うごき、状態、特徴、関係[変化 404]→出現のむすびつき ・人名詞[お民 308]→空間的な位置変化 ・具体名詞、抽象名詞[勝子のこと 814]→態度のむすびつき ・抽象名詞[名 882]→通達の内容規定 |
| 17 | 喫する | 完敗 まけ | (ヴォイス) 使役の受動態 | ・記述なし | ・記述なし |
| 18 | かわす | 雑談 約束 | (ヴォイス) 相互態 | ・所有物→所有 | ・所有物→所有 |
| 19 | むすぶ | 契約 とりきめ | (ヴォイス) 相互態 | ・具体物[ひも 42]→とりつけ ・[関係 300]→フレジオリジカル ・具体物→もようがえ | ・具体物[リボン 56]→とりつけ ・具体物→もようがえ ・具体物→もようがえととりつけとの移行 ・[協定]→慣用的なくみあわせ |
| 20 | あげる | 叫び わらい | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物[網 58]→ばしょがえ ・[火 342]→多義語(物、所有) ・所有物→所有 ・具体物[あいつの 162]→物にたいする ・人名詞[旧友 189]→移動 | ・具体物[燈 94]→うつしかえ ・所有物[梅の実 442、火 443]→やりもらい ・慣用的なくみあわせ ・人名詞[旧友 221]→空間的な位置変化 |
| 21 | いだく | 期待 思い | (ヴォイス) 基本態 | ・記述なし | ・記述なし |

| | | | | | |
|----|------|------------|---------------|--|---|
| 22 | いれる | 説明 電話 | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・[少年 171]→かさね動詞 ・具体物→とりつけとばしょがえとの移行 ・具体物[みかん 63]→ばしょがえ ・具体物[はなし 374]→はたらきかけ ・[場所 349、地所 348]→フレジオリジカル ・[里数 328]→論理の表現 ・人名詞[娘 236、わたし 229]→社会的な状態変化(フレジオリジカルなくみあわせ) | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物[須賀 107]→うつしかえ ・具体物→とりつけ ・具体物→とりつけ、とりはずし、うつしかえの中間 ・所有物[着物 447]→やりもらい ・[首 425]→対象へのはたらきかけ ・人名詞[二人 219]→空間的な位置変化 ・心理活動の対象[はなし 508]→心理的なかわり ・抽象名詞[弱点 562、かなしみ 563]→知的なむすびつき |
| 23 | うつ | 注射 逃げ | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・心理活動の対象[ひざ 375]→かわり ・具体物→ふれあい ・[ねがえり、したつづみ、手拍子、心、波、ばくち、動悸]→フレジオリジカルなくみあわせ ・[膝頭 148、くぎやびょう 149]→多義語(ふれあい、とりつけ) | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物→ふれあい ・[手]→慣用的ないまわし ・[関係、心]→慣用的なくみあわせ |
| 24 | おう | 負担 けが | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・生き物[蚊 256]→はたらきかけ(生き物にたいする) ・具体名詞、現象名詞→動作的な態度 ・人名詞→移動 | <ul style="list-style-type: none"> ・空間、自然現象、時間[家 927]→はなれるところ ・生き物[蚊 331]→対象へのはたらきかけ(生き物にたいする) |
| 25 | おかす | 失敗 反則 | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・抽象名詞[厳禁 769、あやまち 770]→動作の内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・うごき、状態、特徴、関係[中立性 357、390]→変化のむすびつき |
| 26 | おく | 信頼 前提 | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物→とりつけ ・人名詞→社会的な状態変化(フレジオリジカルなくみあわせ) | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物→とりつけ ・所有物[金 451]→やりもらい ・人名詞[かれ 296]→社会的な状態変化 ・抽象名詞→知的なむすびつき |
| 27 | おくる | 声援 合図 | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・所有物→うけわたし ・人名詞[こどものひとり 179]→移動 | <ul style="list-style-type: none"> ・所有物→やりもらい ・人名詞[一人 217]→空間的な位置変化 |
| 28 | おこす | 運動 混乱 | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・人名詞[少年 171]→生理的な状態変化 ・[気持ち、こころざし、考え、共鳴、あらし、行動、争議、事件、産業、脳貧血]→物、人、事にたいする ・属性、運動、自然現象、心理現象、社会現象、社会意識、社会組織など[火 291]→状態変化(つくりだし) | <ul style="list-style-type: none"> ・うごき、状態、特徴、関係→出現のむすびつき ・多義語(もようかえ、生理的な状態変化) ・人名詞→人にたいする ・物人事[産業、戦争、事件、紛争、運動、争議、波瀾、訴訟、反響、共鳴、やけ、邪念、疑問、けいれん、盲腸炎]→物、人、事にたいする |
| 29 | おこなう | 指導 あいさつ | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・抽象名詞[行事 766]→動作の内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・記述なし |
| 30 | おさめる | 成功 成果 | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・記述なし | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物→とりつけ ・所有物→やりもらい |
| 31 | おぼえる | 共感 かゆみ | (ヴォイス) 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・抽象名詞[くるしみ 738]→内的経験の内容 ・具体名詞、現象名詞、抽象名詞[お母さま 539]→認知活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体名詞、現象名詞、抽象名詞[部落 638、悪口雑言 639]→認識のむすびつき ・抽象名詞[反感 865]→体験の内容規定 |

| | | | | | |
|----|------|-------------|---------------|--|---|
| 32 | およぼす | 影響 支配 | (ヴォイス) 基本態 | ・記述なし | ・記述なし |
| 33 | くだす | 判断 命令 | (ヴォイス) 基本態 | ・[判断]→フレジオリジカルなくみ あわせ | ・[評価]→慣用的なくみあわせ |
| 34 | かざる | 優勝 初当選 | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物→もようがえ ・具体物→物にたいする | ・具体物→もようがえととりつけと の移行 |
| 35 | きる | スタート カーブ | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物[炬 94]→つくりだし ・[くび、えん]→フレジオリジカル ・具体物→もようがえ ・人名詞→人にたいする | ・具体物[指 18]→もようがえ ・[木]→対象的なむすびつき ・[しら、えん]→慣用的ないいまわ し ・[言葉、はなし、電話]→慣用的な くみあわせ ・具体物[畦 153]→結果的なむすびつ き |
| 36 | くむ | 協力 闘争 | (ヴォイス) 基本態 | ・記述なし | ・具体物→とりつけ |
| 37 | くわえる | 反論 工夫 | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物→とりつけ ・論理の表現 | ・具体物→とりつけ |
| 38 | しめる | 勝利 勝 | (ヴォイス) 基本態 | ・所有物[室 354]→ものもち | ・記述なし |
| 39 | たてる | 覚悟 予定 | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物[家 90]→つくりだし ・具体物[さお 36]→とりつけ ・人名詞→社会的な状態変化(フレジ オリジカルなくみあわせ) ・属性、運動、自然現象、心理現象、 社会現象、社会意識、社会組織な ど→状態にたいする | ・具体物[線香 41]→とりつけ ・具体物[棒]→もようがえ ・[腹]→慣用的ないいまわし ・慣用的なくみあわせ ・具体物→結果的なむすびつき ・人名詞[紀州慶福 301]→社会的な状 態変化 ・具体物→物にたいする |
| 40 | たれる | 訓辞 | (ヴォイス) 基本態 | ・記述なし | ・記述なし |
| 41 | つくる | 行列 借金 | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物[酒 91]→つくりだし ・具体物[かべ 107]→もようがえ(臨 時) ・物、人、事にたいする | ・うごき、状態、特徴、関係[家庭 374、分裂 395]→出現のむすびつき ・具体物[ささら 140]→結果的なむす びつき ・物人事→物、人、事にたいする |
| 42 | だす | 指示 要求 | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物[金 64]→ばしょがえ ・[こえ、おと、ことば、ちから、元 気、勇気、返事、注文、おふれ、 結論、くせ、熱]→フレジオリジ カルなくみあわせ ・[ひま]→フレジオリジカルない いまわし ・人名詞[倫 233、娘 227]→社会的な 状態変化(フレジオリジカルなくみ あわせ) ・所有物[病氣届 347]→所有(ひゆ) ・人名詞[岡田 188]→移動 | ・具体物[五円の方 98]→うつしかえ ・具体物[金 108]→とりはずし ・空間、自然現象、時間→はなれる ところ ・所有物[がらくた 448]→やりもらい ・[ひま]→慣用的ないいまわし ・人名詞[岡田 218]→空間的な位置変 化 ・人名詞[怪我人 315]→人にたいする (状態の出現) ・人名詞[養子 300]→社会的な状態変 化 |
| 43 | とばす | シッタ 大ヒット | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物→ばしょがえ | ・記述なし |
| 44 | はたらく | 乱暴 詐欺 | (ヴォイス) 基本態 | ・[不正、乱暴、悪事、不貞]→フレ ジオリジカルなくみあわせ ・抽象名詞→動作の内容 | ・記述なし |
| 45 | はなつ | 安打 痛打 | (ヴォイス) 基本態 | ・記述なし | ・記述なし |

| | | | | | |
|----|------|------------|----------------|--|---|
| 46 | ほどこす | 解釈 化粧 | (ヴォイス) 基本態 | ・所有物→うけわたし ・動作性の抽象名詞→スルに近い | ・所有物→やりもらい ・動作をしめす抽象名詞[階級教育 491]→助動詞に近い |
| 47 | むける | 注意 配慮 | (ヴォイス) 基本態 | ・記述なし | ・具体物→とりつけ |
| 48 | もつ | 疑い 意図 | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物[小皿、ピラ 73]→ふれあい ・[はり 320、穂 324]→論理の表現 ・人名詞→社会的な状態変化(フレンジオロジカルなくみあわせ) ・所有物[店 352]→所有 | ・具体物[棍棒 124]→ふれあい ・所有物[家 456、金 460]→ものもち ・[小皿 133]→慣用的なくみあわせ ・人名詞[出世する男 278]→社会的な状態変化 ・心理活動の対象[過去のこと 509]→心理的なかわり |
| 49 | よせる | 期待 反論 | (ヴォイス) 基本態 | ・具体物→ばしよがえ ・[好意 302]→フレンジオロジカル ・具体物[眉 156]→物にたいする | ・具体物→うつしかえ |
| 50 | 発する | 傾向 指令 | (ヴォイス) 基本態 | ・属性、運動、自然現象、心理現象、社会現象、社会意識、社会組織など→状態生産 | ・記述なし |
| 51 | 感じる | 反発 いたみ | (ヴォイス) 基本態 | ・具体名詞、現象名詞、抽象名詞[ふかさ 505]→発見活動 ・具体名詞、抽象名詞[懐しさ 582、雪子 583、卑屈 584、塩水 591]→感情＝評価的な態度 ・抽象名詞[嫌悪 737]→内的経験の内容 ・抽象名詞[興味 743、表情 744、情熱 745、魅力 747、矛盾 746]→内容のむすびつき ・具体名詞、現象名詞、抽象名詞[つめ 526、病気 52、するの] 547、「すること」 550]→認知活動 ・具体名詞、抽象名詞→知的な態度 | ・あらゆる名詞[自分 721、五十三歳 722、雪子 723]→感情的な態度 ・具体名詞、現象名詞、抽象名詞[気持ち 582、心配 583、真剣さと愛情 584、すること 585、顔 634、ずれ 635]→感性的と知的なむすびつき ・具体名詞、現象名詞[人 538、女 539、あかり 540、強震 541、表情 859]→感性的なむすびつき ・具体名詞、現象名詞、抽象名詞→認識のむすびつき ・具体名詞、抽象名詞→態度のむすびつき ・抽象名詞[狼狽 861、つかれ 862、不満 869、恋心 870、興味 860]→体験の内容規定 |
| 52 | 科す | 制裁 | (ヴォイス) 基本態 | ・記述なし | ・記述なし |
| 53 | 生じる | 変容 狂い | (ヴォイス) 基本態 | ・属性、運動、自然現象、心理現象、社会現象、社会意識、社会組織など→状態生産 | ・人名詞[反対者 316]→人にたいする(状態の出現) |
| 54 | はらう | 注意 尊敬 | (ヴォイス) 基本態 | ・所有物→うけわたし ・具体物[ほろ 50]→とりはずし ・[努力]→フレンジオロジカルなくみあわせ | ・具体物→とりはずし ・具体物→ふれあい ・所有物→やりもらい |
| 55 | はじめる | 発売 ダンス | (アスペクト) 始動相 | ・抽象名詞→動作の内容 | ・記述なし |
| 56 | うちきる | 捜査 証人調べ | (アスペクト) 終結相 | ・記述なし | ・うごき、状態、特徴、関係→事にたいする(あわせ動詞) |
| 57 | おわる | 照合 会談 | (アスペクト) 終結相 | ・抽象名詞→動作の内容 | ・記述なし |
| 58 | やめる | 射撃 まばたき | (アスペクト) 終結相 | ・抽象名詞→動作の内容 ・抽象名詞[学校]→動作的な態度(フレンジオロジカルなもの) ・属性、運動、自然現象、心理現象、社会現象、社会意識、社会組織など→状態変化 | ・記述なし |

| | | | | | |
|----|--------|--------------|-------------------|--|---|
| 59 | とげる | 変質 発達 | (アспект) 実現相 | ・[死、進歩、発展、最後、志、かつ ぼれ 767]→フレジオリジカルなく みあわせ | ・記述なし |
| 60 | はたす | 上位当選 初入場 | (アспект) 実現相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 61 | たどる | 回復 変化 | (アспект) 継続相 | ・記述なし | ・空間、自然現象、時間[道 904]→う つりうごくところ |
| 62 | たもつ | 接触 連絡 | (アспект) 継続相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 63 | つづける | 努力 沈黙 | (アспект) 継続相 | ・抽象名詞→動作の内容 | ・記述なし |
| 64 | つらぬく | 秘密保持 据え置き | (アспект) 継続相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 65 | ぬぐらす | 想像 考え | (アспект) 継続相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 66 | まもる | 沈黙 禁酒 | (アспект) 継続相 | ・心理活動の対象→かかわり ・具体名詞、現象名詞[法律、いいつ け]→動作的な態度 ・抽象名詞[態度、憲法、法律]→動 作的な態度(フレジオリジカルなも の) | ・記述なし |
| 67 | かさねる | 議論 努力 | (アспект) 反復相 | ・具体物→とりつけ | ・具体物→とりつけ ・[壺 174]→形象的な表現 |
| 68 | くりかえす | 練習 返答 | (アспект) 反復相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 69 | くりひろげる | おしゃべり | (アспект) 反復強意相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 70 | すすめる | 調査 協議 | (アспект) 反復強意相 | ・属性、運動、自然現象、心理現象、 社会現象、社会意識、社会組織な ど→状態変化 | ・心理活動の対象→心理的なかわ り |
| 71 | つのらせる | 怒り | (アспект) 反復強意相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 72 | つむ | 修行 練習 | (アспект) 反復強意相 | ・具体物→とりつけ | ・具体物[石炭 36、くるまに荷物]→ とりつけ |
| 73 | かたむける | 努力 | (アспект) 強意相 | ・記述なし | ・具体物→もようがえ ・[耳 182]→形象的な表現 |
| 74 | かためる | 判断 結束 | (アспект) 強意相 | ・属性、運動、自然現象、心理現象、 社会現象、社会意識、社会組織な ど→状態変化 | ・うごき、状態、特徴、関係→変化 のむすびつき ・うごき、状態、特徴、関係[結束 342]→事にたいする |
| 75 | こめる | 祈願 期待 | (アспект) 強意相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 76 | こらす | 工夫 演出 | (アспект) 強意相 | ・[よそおい]→フレジオリジカルな くみあわせ | ・記述なし |
| 77 | たたかわす | 激論 | (アспект) 強意相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 78 | つくす | 議論 努力 | (アспект) 強意相 | ・記述なし | ・記述なし |
| 79 | つよめる | 結束 批判 | (アспект) 強意相 | ・属性、運動、自然現象、心理現象、 社会現象、社会意識、社会組織な ど[信頼 261]→状態変化 | ・うごき、状態、特徴、関係[抵抗] →事にたいする |
| 80 | ねる | 計画 構想 | (アспект) 強意相 | ・記述なし | ・具体物[あんこ]→もようがえ |

| | | | | | |
|----|-------|------------|------------------------|---|--|
| 81 | ふかめる | 理解 連帯 | (アスペクト) 強意相 | ・ 属性、運動、自然現象、心理現象、 社会現象、社会意識、社会組織な ど→状態変化 | ・ うごき、状態、特徴、関係[経済力 344]→事にたいする |
| 82 | うかべる | 微笑 薄笑い | (アスペクト) 緩和相 | ・ 記述なし | ・ 記述なし |
| 83 | かじる | 学問 法哲学 | (アスペクト) 緩和相 | ・ [すね]→フレジオリジカルないい まわし | ・ 具体物→ふれあい |
| 84 | こぼす | ぐち | (アスペクト) 緩和相 | ・ [ぐち 303]→フレジオリジカルなく みあわせ | ・ 多義語(対象へのはたらきかけ、心 理的なかわり) ・ 具体物[涙 161]→結果的なむすびつ き ・ 抽象名詞→通達のむすびつき |
| 85 | もらす | 眩き 微笑 | (アスペクト) 緩和相 | ・ 記述なし | ・ 多義語(対象へのはたらきかけ、心 理的なかわり) |
| 86 | しめす | 譲歩 好投 | ムード | ・ 具体名詞、現象名詞[手紙や作文 700、軽石状構造 708]→動作的な態 度 | ・ 記述なし |
| 87 | くわだてる | 計画 反乱 | ムード | ・ 動作性の抽象名詞[毒殺 478]→意志 活動 | ・ 動作性の名詞[密航]→モーダルな 態度 ・ 動作性の名詞[毒殺 841]→意志的な むすびつき |
| 88 | ねがう | 協力 | ムード | ・ 抽象名詞→言語活動(要求・願望) ・ 動作性の抽象名詞[「すること」 496]→要求活動 | ・ 動作性の名詞→モーダルな態度 ・ 動作性の名詞[死 830]→要求的なむ すびつき |
| 89 | ねらう | 逆転 挑戦 | ムード | ・ 具体名詞、現象名詞[ねずみ 693]→ 動作的な態度 | ・ 記述なし |
| 90 | のぞむ | 援助 | ムード | ・ 具体名詞[恵那山 382]→感性的なむ すびつき ・ 動作性の抽象名詞[「すること」 497、 御親征 482]→要求活動 | ・ 具体名詞[恵那山 514]→感性的なむ すびつき ・ 動作性の名詞[復活 828]→要求的な むすびつき |
| 91 | 命じる | 調査 | ムード | ・ 抽象名詞[酒 471]→言語活動(要 求・願望) | ・ 動作性の名詞[節煙 838]→モーダル な態度 |
| 92 | はかる | 調整 節約 | ムード | ・ 具体名詞、現象名詞、抽象名詞→ 計算活動 ・ 動作性の抽象名詞→意志活動 | ・ 動作性の名詞[自殺 823]→意志的な むすびつき |
| 93 | みせる | 反発 歩み寄り | ムード | ・ 具体名詞、現象名詞[写真 702]→動 作的な態度 | ・ 記述なし |
| 94 | さしはさむ | うたがい | 不明確 | ・ 記述なし | ・ 記述なし |
| 95 | はさむ | うたがい | 不明確 | ・ 具体物→とりつけ | ・ 具体物→とりつけ |
| 96 | あたえる* | 安心 保証 | (ヴォイス) 他動使役態 基本態 | ・ 所有物→うけわたし ・ 動作性の抽象名詞[確答 366、警告 368]→スルに近い ・ 状態性の抽象名詞[ショック 360、 衝動 362、打撃 364]→状態生産に 近い | ・ 所有物→やりもらい ・ 状態をしめす抽象名詞[かなしみ 475、納得 476、変化 477、打撃 478]→事にたいするに近い ・ 動作をしめす抽象名詞[確答 483、 訓戒 484、刺激 485、束縛 486]→助 動詞に近い |
| 97 | うばう* | ダウン ゴール | (ヴォイス) 他動使役態 基本態 | ・ 所有物→うけわたし | ・ 所有物[お菓子 435]→やりもらい ・ [個性 470]→慣用 |

| | | | | | |
|-----|------|------|------------------------|--|---|
| 98 | かける＊ | 迷惑期待 | (ヴォイス) 他動使役態 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物[小屋 96]→つくりだし(使役) ・具体物[くわ 27]→とりつけ ・[こえ]→フレジオロカルないいまわし ・[苦勞 299、]→フレジオロジカルなくみあわせ ・論理の表現 ・具体物[手 158]→物にたいする(ひゆ) | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物[たすき 33、タオル 85]→とりつけ ・具体物[小屋をかけさせる 151]→結果的なむすびつき |
| 99 | きたす＊ | 低下損傷 | (ヴォイス) 他動使役態 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・属性、運動、自然現象、心理現象、社会現象、社会意識、社会組織など[変化 288、変調 278]→状態生産 | <ul style="list-style-type: none"> ・うごき、状態、特徴、関係[解体 375、変調 397]→出現のむすびつき |
| 100 | つける＊ | 変化交渉 | (ヴォイス) 他動使役態 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物[窓 95]→つくりだし ・具体物[きれ 37]→とりつけ | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物[布 38]→とりつけ ・[かた]→慣用的ないいまわし ・[手 178]→形象的な表現 |
| 101 | とる＊ | 了解連絡 | (ヴォイス) 他動使役態 基本態 | <ul style="list-style-type: none"> ・所有物→うけわたし ・心理活動の対象[それ 373]→かかわり ・動作性の抽象名詞[自由行動 370、連絡 371、相撲]→スルに近い ・具体物[蠟形 98]→つくりだし ・具体物[手ぬぐい 45、しらみ 131]→とりはずし ・具体物[手桶 74]→ふれあい ・多義語(物、所有) | <ul style="list-style-type: none"> ・具体物[手ぬぐい 83、湯 84]→とりつけ ・具体物→とりはずし ・具体物→ふれあい ・所有物[手数料 441、謝礼金 454]→やりもらい ・多義語(対、心) ・慣用的なくみあわせ ・[すもう、レスリング、指紋、間隔、責任、調子、政策]→慣用的なくみあわせ ・人名詞→社会的な状態変化 ・動作をしめす抽象名詞[連絡 495、自由行動 494]→助動詞に近い |

4.2 連語論に見られる機能動詞結合

表6から分かるように、村木（1991）が機能動詞として挙げている101語の動詞のうち、79語については奥田（1960・1968-72）にも記述が見られる。ただし、その多くは、それらが自由結合をなす場合の記述である。79語の動詞を、動作名詞とのくみあわせが記述されているものとされていないものとに分類すると、表7のようになる。下線を引いたものは、動作名詞とのくみあわせが「慣用的なくみあわせ」として記述されているものである。

表7 連語論における機能動詞の記述の状況

| | |
|---------------------|--|
| 動作名詞とのくみあわせが記述されている | <p>うける、かう、むすぶ、うつ、だす、はたらく、よせる、はらう、とげる、こらす、かける、える、まねく、ゆるす、うながす、ひきおこす、もたらす、よぶ、いれる、おかす、おく、おこす、おこなう、おぼえる、くだす、きる、たてる、つくる、ほどこす、もつ、発する、感じる、生じる、はじめる、うちきる、おわる、やめる、つづける、すすめる、かためる、つよめる、ふかめる、こぼす、もらす、くわだてる、ねがう、ねらう、のぞむ、命じる、はかる、あたえる、うばう、きたす、とる</p> <p>(55語)</p> |
|---------------------|--|

| | |
|----------------------------------|--|
| 動作名詞との くみあわせが 記述されてい ない | あつめる、あびる、かわす、おう、おくる、おさめる、かざる、くむ、く わえる、しめる、とばす、むける、たどる、かさねる、つむ、みせる、か たむける、ねる、しめす、はさむ、くう、あげる、かじる、つける (24 語) |
|----------------------------------|--|

動作名詞とのくみあわせが記述されていても、そのすべてが非自由結合と見なされているわけではない。以下では、村木の機能動詞結合を奥田がどのように記述しているかについて具体的に考察する。

奥田の連語の記述の中で、動作名詞を構成要素とする連語であることが明らかなのは、教育国語版における「モーダルな態度のむすびつき」というタイプである。例えば、表6の87、88、90、92行目「復活をのぞむ」などのような連語は、村木（1991）では、ムード的な意味を表す機能動詞結合として扱っている。

村木は、モダリティーの表現手段としての機能動詞結合は、動作主体の態度にかかわるもので、かなりディクトゥムよりのモダリティーであり、「のぞむ」「ねがう」のようなモーダルな意味をもったモーダル動詞と動作名詞で構成されるとしている。これに対して、奥田は、モーダルな態度のむすびつきを表す連語は、動詞の方は要求とか命令、願望とか期待、忠告とか奨励、許可とか禁止、意図とか決心などの様々なモーダルな態度を表現し、くみあわさる名詞は動作性の名詞であるとしている。両者はほとんど同じことを述べているのだが、語結合の種類については、一方は連語（自由結合）、他方は機能動詞結合（非自由結合）という、違った捉え方がされている。

「モーダルな態度のむすびつき」と同じように、動作名詞と共起するものには、奥田が「助動詞（スル）に近い」と指摘しているものもある。例えば、表6の3行目「指導をうける」、表6の96行目「納得をあたえる」などである。本来、「うける」や「あたえる」は「所有」を表す動詞であり、所有物である具体名詞と組み合わせるが、抽象名詞とくみあわさることもでき、その時には「事にたいするはたらきかけ」を表すとされている。そして、これらの表現については、「を格の抽象名詞を動詞化するという、どちらかといえば助動詞的なはたらきしかしなくなる」（言語学研究会編1983：87）と指摘されている。連語の記述の中にありながら、これらは自由結合から区別されており、実質的に合成動詞として捉えられていると考えられる。

また、村木の機能動詞結合が、奥田の記述では「慣用的なくみあわせ」として記述されているケースも多い。例えば、「判断をくだす」「よそおいをこらす」は、村木の機能動詞結合であるが、奥田の記述では、具体的な作用動詞「くだす」（表6の33行目）と「こらす」（表6の76行目）の比喩＝形象的な使用と認め、二単語のくみあわせの名づける的な意味は、二つの語彙的な意味と二者のむすびつきとを知っているだけでは理解できないので、慣用的なむすびつきであると奥田は述べている。

なお、「よそおいをこらす」「判断をくだす」のような語結合は、具体的な作用動詞の比喩＝形象的な使用によって成立した慣用的なくみあわせであったが、このような比喩＝形象的な使用、慣用

的なくみあわせは、連語（自由結合）に移行することができるとしている。例えば、表6の28行目「運動をおこす」「紛争をおこす」「疑問をおこす」のような「事にたいするはたらきかけ」を表す語結合は、すでに慣用的なくみあわせから解放され、動詞が自由な意味を表すとしている。

ところが、この慣用句にしばられた意味も、その後の使用のなかでますます固定化してきて、慣用句から解放されるようになる。この過程は、かざり名詞の位置に同義語、あるいは類義語が自由にあらわれてくる過程と平行している。さらにすすんで、あたらしく形成した、その語彙的な意味を土台にして、語彙＝文法的な結合能力がゆるす範囲に、あらゆる抽象名詞と自由にくみあわせるようになる。こうして、単語の慣用的なくみあわせは単語の自由なくみあわせへ移行する。つまり、慣用句は連語のなかに解体していくのである。

（言語学研究会編1983：76）

つまり、奥田は、抽象名詞と具体的な作用動詞からなる語結合は、かざり名詞の位置にくるものに制限があれば「慣用的なくみあわせ」とし、制限がほぼなければ「事にたいするはたらきかけ」として扱っている。

つづいて、教育国語版ではずされた「動作の内容」という語結合のタイプについて、考察する。60年版では、「動作の内容」を表す語結合について、以下のように説明している。

動作内容のむすびつきをいいあらわす単語のくみあわせは、はたらく、はげむ、つとめる、おこたる、なまける、ためらう、やすむ、こころみる、よそう、いそぐ、おこなう、すます、なしとげる、やめる、よす、はじめる、おわる、つづけるのような動詞をしんにして、できている。かざり名詞は、これらの動詞がしめす動作の内容をうめているわけだが、このリストから判断できるように、この動詞グループは、動作あるいは状態を様態、継続の側面から特徴づけているものである。そして、動作あるいは状態そのものは、かざり名詞によってあたえられている。

（言語学研究会編1983：274）

奥田のこの説明は、機能動詞結合の説明と重なる。ここでも、60年版では、村木の機能動詞結合が「動作の内容」という連語のタイプとして扱われているのである。しかし、奥田は、これを連語、つまり自由結合と見なすことを躊躇している。ただし、動詞化の手続きには至っていないと見ている⁴。

⁴ 奥田は、根拠として、「ちょっと、この問題を解釈をしておくれんかな」という例を挙げている。「問題を」と共起すると不自然になることから、「解釈をする」を一つの動詞と見ることはできないということである。

この観点からみれば、はじめる、おわる、つづける、するは、文法的にはたらいいて、名づける的な意味をうしなっているといえる。したがって、単語のくみあわせの領域では、あつかう必要がないともいえる。しかし、を格の名詞とする、はじめるなどの動詞とのくみあわせは、完全な意味で動詞化の手つづきに移行しているとはいえない。なぜなら、この種の単語のくみあわせは、動詞としての文法的な能力（連用修飾語をとともないうるという能力）を完全にそなえていないからである。

(言語学研究会編1983：276)

村木は、すべてではないが、機能動詞は、語彙統語論的な手段としてヴォイス・アスペクト・ムードなどの文法的な意味を表すとしている。例えば、「発売をはじめる」は始動相（表6の58行目）、「射撃をやめる」は終結相（表6の29行目）、「指導をおこなう」は基本態（表6の55行目）であるとしている。奥田の記述にも、「モーダルな態度」という用語や「動作あるいは状態を様態、継続の側面から特徴づけている」という説明が見られるが、村木ほど、文法的カテゴリーとの関係に注目しているわけではない。

5. おわりに

以上、村木の機能動詞論と奥田の連語論の接点を探ってみた。その結果、以下のようなことが明らかになった。

機能動詞結合という概念は、奥田が連語を研究していた当時はまだ普及していなかったと思われるが、奥田はこのタイプの語結合の成立が、現代日本語の連語の法則によって説明できないと認識していたようである。それらの一部は慣用的なくみあわせとして、また、あるものは動詞化として扱おうとした。それらの一部は連語（事にたいするはたらきかけ・モーダルな態度のむすびつき）として扱われているが、それらに対する説明は、村木の機能動詞結合の説明を先取りしている。

最後に、今後研究する必要がある課題について筆者の考えを述べておく。

本稿の調査結果から明らかになったように、奥田による連語の記述中には機能動詞結合にあたるものが散在しており、それらが自由結合とは異質であることも、それなりに認識されている。しかし、それらは、あくまでも連語を記述する過程で視野に入ってきたものであり、最初からそれらに焦点をあてて網羅的に記述しようとしたものではない。一方、村木の研究では、非自由結合としての機能動詞結合に対して集中的な検討がなされている。しかし、文法的な意味に引きつけて記述する傾向が強く、また、同じ動詞が自由結合にも用いられるという事実が視野に入ったが、まだ十分に検討されていない。

を格の名詞と動詞からなる語結合が自由結合から非自由結合へと移行する一つの重要な条件として、かぎりの位置に具体名詞ではなく動作名詞が現れるということがある。したがって、を格の動作名詞の用例を大量に収集し、それらが動詞とともにどのようなタイプの語結合を構成するかを網

羅的・体系的に記述することは、連語論にとっても、機能動詞論にとっても、重要な課題となり、研究の発展を促すことになることは疑いがない。

参考文献

- 岩崎英二郎 (1974) 「ドイツ語と日本語の機能動詞」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』 6
- 奥田靖雄 (1960) 「を格のかたちをとる名詞と動詞とのくみあわせ」(言語学研究会編 (1983) に収録)
- 奥田靖雄 (1968-1972) 「を格の名詞と動詞とのくみあわせ」『教育国語』12-28 (言語学研究会編 (1983) に収録)
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編 (1988) 『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂
- 言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論 (資料編)』むぎ書房
- 鈴木康之 (1983) 「連語とはなにか」『教育国語』73
- 村木新次郎 (1980) 「日本語の機能動詞表現をめぐる」『国立国語研究所報告65 研究報告集』2
- 村木新次郎 (1983) 「機能動詞の記述—日本語とドイツ語を例として」『国文学 解釈と鑑賞』48-6
- 村木新次郎 (1985) 「慣用句・機能動詞結合・自由な語結合」『日本語学』4-1
- 村木新次郎 (1991) 『日本語動詞の諸相』ひつじ書房